

授業

国語科教育法の授業で、模擬授業を十五分ほどやったことがありますが、五十分の授業の準備は、比べ物にならないくらい大変でした。

一回の授業をするのに、徹底的に下調べをして、どんな質問をされても答えられるようにするために、教材に関連する知識も身に付けなければならず、何日もの時間がかかりました。しかし、教員になったら、忙しくて、一つの授業にこんなにじっくり教材研究をする時間が取れないというお話を担当の先生から伺い、残りの大学生活で、できるだけ国語の知識を身に付けておく必要があると感じました。

また、二回目の授業で、時間をかけて準備をしたのにも関わらず、指名した生徒が答えた答えが当たらずしも遠からずで、うまく拾うことができなかったという出来事がありました。これは、予想される生徒の反応をもっと幅広く考えておかなかった自分の甘さだと感じたので、同じことを繰り返さないように、もっと詰めて授業準備をしようと反省しました。

生徒は教師のことを本当によく見ていて、緊張して授業をすればその緊張感が生徒にも伝わり、見ている側も心配になるし、本当にその作品が好きで、「楽しさを分かってもらいたい」と熱意を持って授業をすれば、生徒にもその熱意が伝わり、作品に興味を持ってくれると身を持って実感しました。教員は、どんな作品も心から愛し、その愛を生徒に伝えられるような授業ができるようにする必要があると思いました。

また、生徒に授業に興味を持たせる工夫として、話し合いの時間を入れたり、体を使った動作を入れたり…というのも効果的でした。これから教育実習を行う人たちにも、ぜひこのような工夫を授業にたくさん取り入れてみてほしいです。

生徒指導

昨年5月から3月まで、週に一度、小学校に通って授業支援のボランティアをしてきましたが、当然小学生と高校生は全く違って、かなり大人びて見えました。だからこそ、どこまでできてどこからできないのか、判断するのが難しかったです。

また、「生徒との距離感」について、あまりこちらから話しかけに行くと、生徒との距離が近くなりすぎて、ただの友達になってしまうのではないかと悩みましたが、実習を通して色々なタイプの先生がいると知り、自分に合っているのが、「フレンドリーな教師」だと思ったので、一緒に球技大会のクラス旗を描くのを手伝う、こちらから積極的に話しかけるというのを継続しました。しかし、仲良くなりすぎてしまうと、叱るべきときに叱っても言うことを聞かなくなるといったので、一定の距離を保つように心掛けました。

学校観

6年間通った学校だったので、母校のことについては何でも知っているつもりでいましたが、生徒目線と教師目線では、全く違いました。自分が中高生のとき、こんなにも授業準備に時間がかかっているなんて思いませんでしたし、授業以外にも部活指導や学校の広報活動などたくさんの仕事があり、教師とはあまりに忙しくて休む暇のない、とても大変な仕事だと強く感じました。しかし、人を相手にする仕事なので、人の成長を助け、導くという点で、とてもやりがいのある仕事であることは間違いありません。

三週間という短い間でしたが、生徒と一緒に成長することができた、とても充実した教育実習でした。